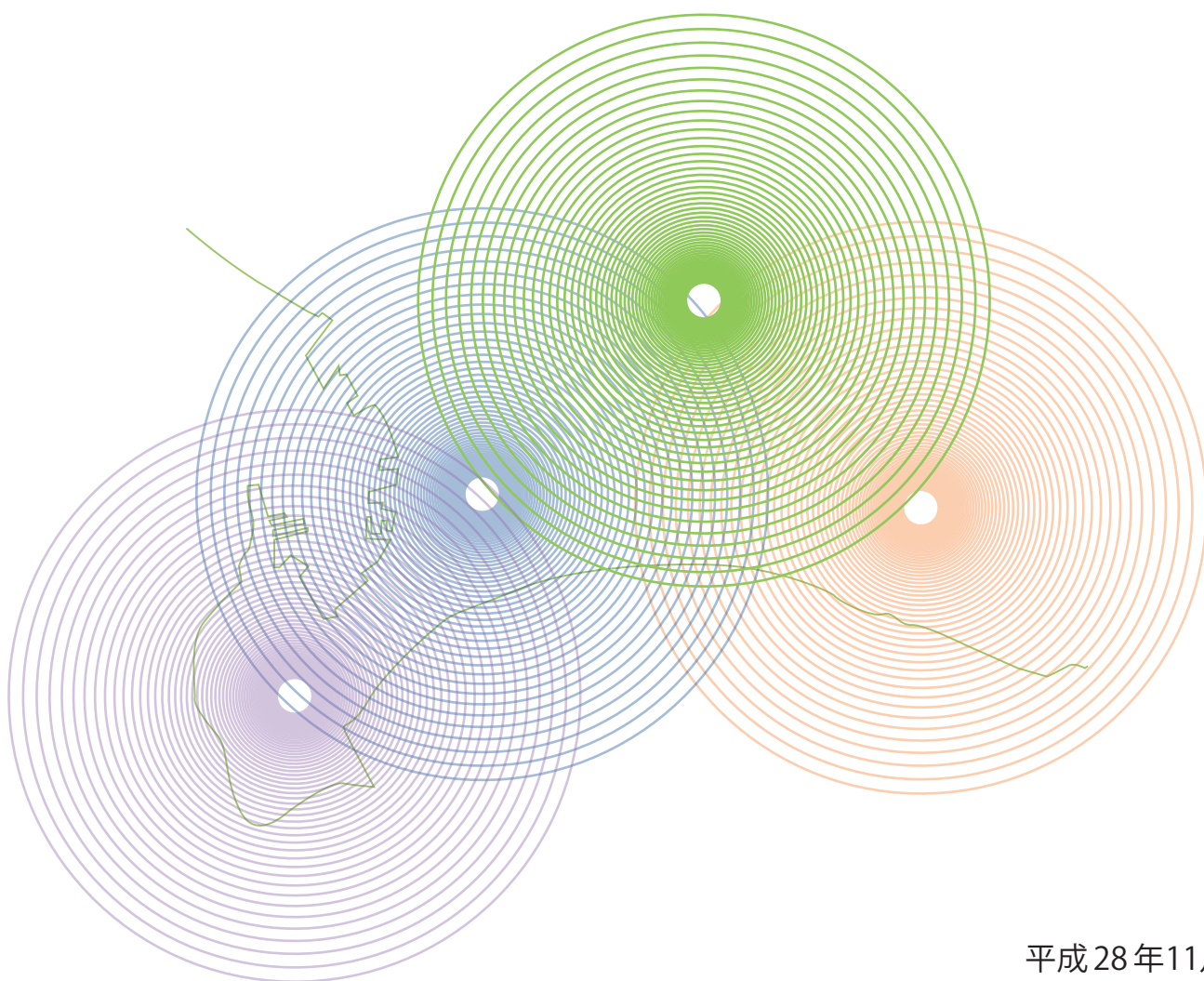


「ガーデンシティ函館」の 実現をめざして



平成28年11月
函館市

目次

1	「ガーデンシティ函館」について	1
	（1） 背景	
	（2） 「ガーデンシティ函館」とは	
	（3） 重点推進期間	
2	「ガーデンシティ函館」の基本方針	3
3	「ガーデンシティ函館」の推進イメージ	4
4	エリア設定	5
5	エリア別コンセプト	6
6	エリアイメージ	8
	西部地区 エリアイメージ	
	駅前・大門地区 エリアイメージ	
	本町・五稜郭地区 エリアイメージ	
	湯の川地区 エリアイメージ	
7	「ガーデンシティ函館」の実現に向けた主な予定事業	13
8	事業展開にあたって	14
	資 料	15

1 「ガーデンシティ函館」について

(1) 背景

函館市は、歴史や景観、グルメなど多くの観光資源を有し、民間調査会社による都市の魅力度調査において高い評価を受けています。

また、近年では台湾、中国との国際定期便の就航により、海外からの観光客数が過去最高を更新し、大型クルーズ船の寄港増加や中心市街地活性化事業の進展などにより、まちに新たな賑わいが生まれています。

このようななか、平成28年3月、北海道新幹線が開業したことで、これまで以上に国内外から観光客などが増加することが見込まれており、今後、交流人口の拡大に対応したまちづくりを加速しなければなりません。

国においては、平成32年に開催されるオリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、訪日外国人旅行者数4,000万人をめざしており、北海道でも300万人をめざしています。

本市においては、北海道内の自治体をはじめ、青森市、弘前市、八戸市など青森県域や新幹線沿線など多くの自治体と広域連携の取り組みを進めてきていることから、新幹線はもとより、新千歳、青森、仙台をはじめ各空港との連携などにより、外国人観光客が100万人の大台に乗ることが期待されています。

また、北海道新幹線は平成42年度末に札幌市への延伸が予定されており、札幌延伸によって函館と札幌が約1時間で結ばれることから、既に新幹線で1時間、2時間30分で結ばれている青森、仙台とともに、東北・北海道における新たな観光ルートの形成をめざすこととなります。

今後、本格化する人口減少社会において、このような新幹線の開業効果を将来にわたり持続させ、函館再生を図るためには、これまでのような観光資源やイベントのみに頼るまちづくりを転換し、15年後、20年後を見据えた長期的な視点に立ったまちづくりに取り組む必要があります。

1 「ガーデンシティ函館」について

(2)「ガーデンシティ函館」とは

これまで20年以上かけて整備してきた西部地区の坂道や歴史的建造物などの町並みが、今では函館観光の中心的存在となっているように、歴史と景観に配慮した、デザイン性の高い美しい町並みを整備し、函館のまち全体が、緑あふれる公園やオープンガーデンのような、見て、歩いて、感じて楽しい、美しいまちになるよう、長期的なまちづくりに取り組むものです。

住む人も、訪れる人も、だれもがこのまちで過ごす時間を幸せに感じられるまちをめざし、点在する観光資源を道路などの線で結び、さらに面として整備することで、函館の魅力に磨きをかけ、賑わいの創出と交流人口の拡大、さらには将来にわたって持続する都市ブランドの確立を図ります。

(3)重点推進期間

平成28(2016)年度～平成42(2030)年度 (15年間)

「ガーデンシティ函館」と「美しい都市空間の形成を目指して」について

「ガーデンシティ函館」は、質の高い都市空間の形成に向けて、コンセプトの構築と美しいまちづくりの推進を図ることを目的に設置された「函館市美しいまちづくり検討会」において、平成24年に提言された「美しい都市空間の形成を目指して」における基本的なコンセプトやエリア設定などを参考としながら進めます。

2 「ガーデンシティ函館」の基本方針

基本方針

- ・ 住む人や訪れる人が、見て、歩いて、感じて楽しいまちづくり
- ・ まちの魅力度向上による賑わいの創出と交流人口の拡大
- ・ 将来にわたって持続する国内屈指の都市ブランドの確立

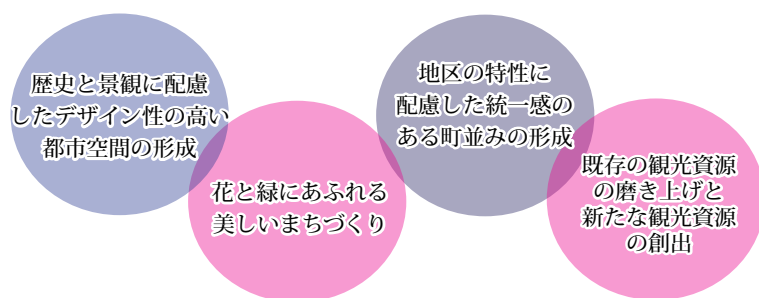
主要施策

- ① 歴史と景観に配慮した、デザイン性の高い都市空間の形成
- ② 花と緑にあふれる美しいまちづくり
- ③ 地区の特性に配慮した、統一感のある町並みの形成
- ④ 既存の観光資源の磨き上げと新たな観光資源の創出

既存の観光資源やストック

異国情緒 函館山からの夜景 五稜郭
歴史的町並み ウォーターフロント
温泉 イベント グルメ

新たな魅力の付加



～ 「ガーデンシティ函館」の実現 ～

見て、歩いて、
感じて楽しい
まちづくり

賑わい創出と
交流人口の拡大

国内屈指の
都市ブランドの
形成

3 「ガーデンシティ函館」の推進イメージ



西部地区で培った町並み整備の手法を地区の特性を活かして函館全域に広げます。

【主要施策と実施主体】

主要施策	実施主体	行 政		関係機関・団体等		市民
		市	国 北海道	町会 NPO	商店街 民間企業	ボランティア
①歴史と景観に配慮した、デザイン性の高い都市空間の形成						
◇中心市街地やメインストリートなどでの道路整備		○	○			
◇駅・港・空港などでの緑化整備		○	○		○	
◇景観に配慮した建築物や屋外広告物等の誘導		○			○	
◇総合的な空家空地対策の推進		○			○	○
②花と緑にあふれる美しいまちづくり						
◇市民意識の醸成		○		○		○
◇市民協働による植栽管理		○	○	○	○	○
◇景観に配慮した統一感のある植栽の促進		○	○	○	○	○
③地区の特性に配慮した、統一感のある町並みの形成						
◇西部地区、駅前・大門地区、本町・五稜郭地区、湯の川地区での道路整備		○	○			
◇中心市街地活性化事業との連携		○	○	○	○	○
◇国や北海道との連携による事業の推進		○	○			
④既存の観光資源の磨き上げと新たな観光資源の創出						
◇函館山、ウォーターフロントなどにおける観光資源の整備拡充		○	○			
◇イベントの組織化・体系化による情報発信の強化		○			○	

4 エリア設定

- 対象地域は全市域とし、特に重点的に事業を推進する4地区（重点推進エリア）を設定します。
- 市民・観光客の動線を意識し、重点推進エリア間の連続性にも配慮します。

重点推進エリア

西部地区

我が国最初の国際貿易港として諸外国の文化が流入し、異国情緒漂う町並みが形成される地区

駅前・大門地区

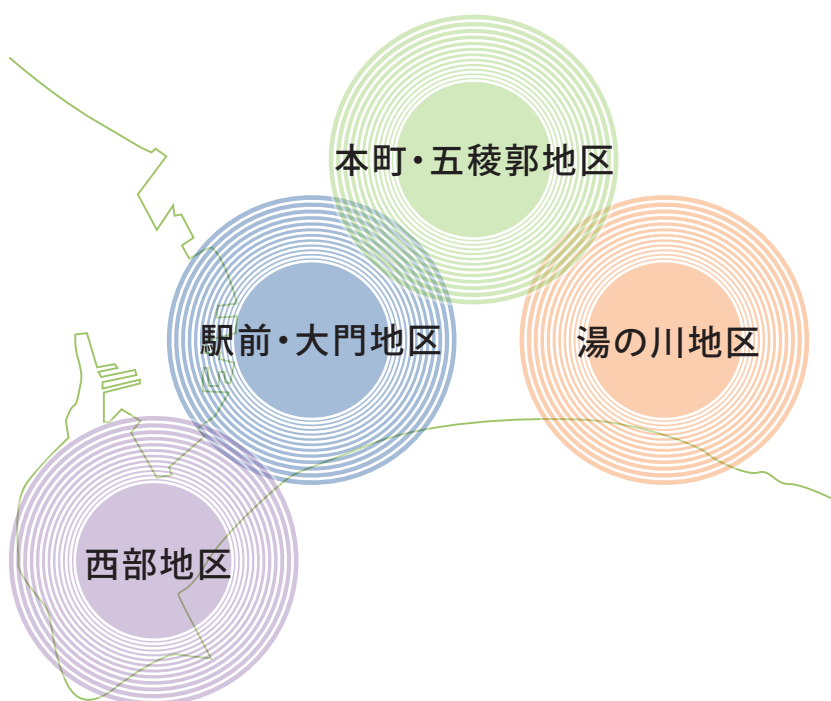
長年にわたり、北海道と本州を結ぶ交通の要衝として、行政、経済、文化の核として大きな役割を果たしてきた地区

本町・五稜郭地区

商業・業務機能が集積し、文化・教養・スポーツレクリエーション施設を有する賑わいのある地区

湯の川地区

温泉資源に恵まれた温泉保養地として、古くから独自の発展を遂げてきた地区



5 エリア別コンセプト

エリア	コンセプト	コンセプトワード
西部地区 	DNAを継承した 進化と保存の共存	- 異国情緒と懐かしさが感性に響くまち - 開港の歴史と文化が息づく函館発祥の地 - 住み続けて磨かれる新しいまち景観への進化
駅前・大門地区 	オールド・ニュー～ 人々の繋がりと ふれあい	- 市民と観光客がふれあう函館のエントランス - どこか懐かしい薫りがする多世代間の交流の場 - 生活・交通・経済のクロスエリア
本町・五稜郭地区 	クロスタウン～ 人々の暮らしを 繋ぐ拠点	- 人・交通・情報が交錯する函館の重心 - ビジネス・商業・歓楽が共存する賑わいのまち - 文化と学びの回廊
湯の川地区 	温泉街ルネサンス	- 浴衣でそぞろ歩く温泉街 - やすらぎの癒し空間 - はこだてリゾート

都市空間形成のための手法

キーポイント

- ・ 五感に訴える新しいアプローチ
- ・ 歩きたくなる仕掛けづくり
- ・ 坂道を軸にして海を見下ろす景観を美しく

- ・ 元町地区
- ・ ウォーターフロント
- ・ 十字街
- ・ 中臨港通(開港通り)

- ・ 駅前をエントランスとし、他の地域へ人が回遊する仕掛けづくり
- ・ 建物の高さや色, ストリートファニチャーなどによる歩行者視点での視覚の一貫性
- ・ 港とまちの繋がりを考えたゾーニング

- ・ J R 函館駅前
- ・ 駅前通り
- ・ はこだてグリーンプラザ
- ・ 東雲広路・公園通 2 号(高砂通り)

- ・ 楽しみながら歩くことのできる動線を設定
- ・ 通り一本入ると雰囲気が違うおもしろいまち
- ・ 電停から五稜郭公園方向へ誘導するための空間デザインの工夫

- ・ 五稜郭公園
- ・ 本町地区
- ・ 千代台公園

- ・ 温泉街をそぞろ歩けるような環境づくり(散策路・親水歩行コースなど)
- ・ 温泉街と商店街を繋ぐ動線の創造
- ・ 温泉街をひとつの公園として考える

- ・ 湯の川温泉街
- ・ 函館アリーナ
- ・ 熱帯植物園
- ・ 漁火通り

6 エリアイメージ

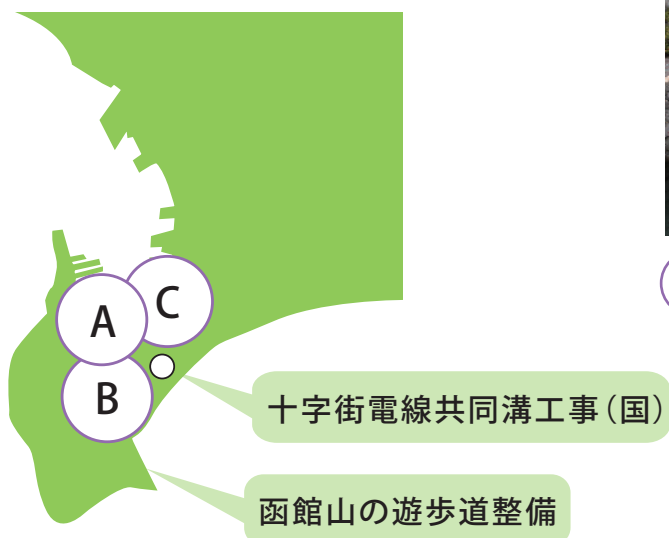
4つの重点推進エリアを設定するほか、エリアをつなぐ路線を整備していくことで、点在する観光資源を線で結び、点から線、線から面へのまちづくりを進めます。



6 エリアイメージ



- D N Aを継承した進化と保存の共存
- ・ 五感に訴える新しいアプローチ
 - ・ 歩きたくなる仕掛けづくり
 - ・ 坂道を軸にして海を見下ろす景観を美しく



A 末広地区緑地

- ・ 遊歩道の整備
- ・ ベンチ, 照明灯の設置
- ・ 護岸整備
(大町地区泊地護岸のイメージ)



B 高田屋通・銀座通

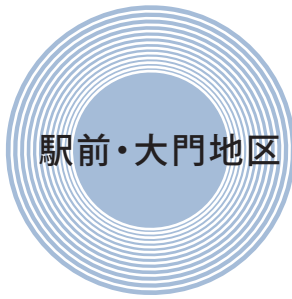
- ・ 既存観光動線の拡大
- ・ 歩道の広幅員化, 舗装の高質化
- ・ 植栽スペースの設置
- ・ デザイン照明灯の設置



C 中臨港通(開港通り)

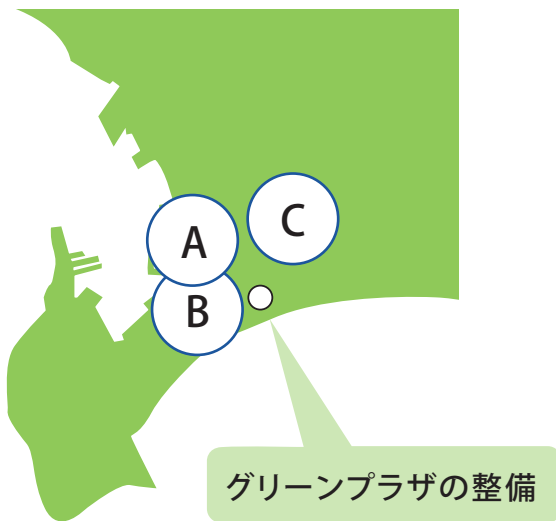
- ・ 函館駅から西部地区を結ぶ歩行者動線の確保
- ・ 歩道の広幅員化, 舗装の高質化
- ・ 植栽スペースの設置
- ・ ベンチの設置

6 エリアイメージ



オールド・ニュー～
人々の繋がりと
ふれあい

- ・ 駅前をエントランスとし、他の地域へ人が回遊する仕掛けづくり
- ・ 建物の高さや色, ストリートファニチャーなどによる歩行者視点での視覚の一貫性
- ・ 港とまちの繋がりを考えたゾーニング



A 函館駅前通り

- ・ 電線類地中化工事(国事業)
- ・ 市電ちょう架線の整理
- ・ 歩道舗装の整備, 歩道照明柱の設置(シンボル照明柱2基設置)
- ・ 季節感ある街路樹の植栽



B 東雲広路

- ・ 歩道の広幅員化, 舗装の高質化
- ・ 植栽スペースの設置
- ・ ベンチ, 案内標識の設置



C 公園通2号(高砂通り)

- ・ 歩道舗装の高質化
- ・ デザイン照明灯の設置

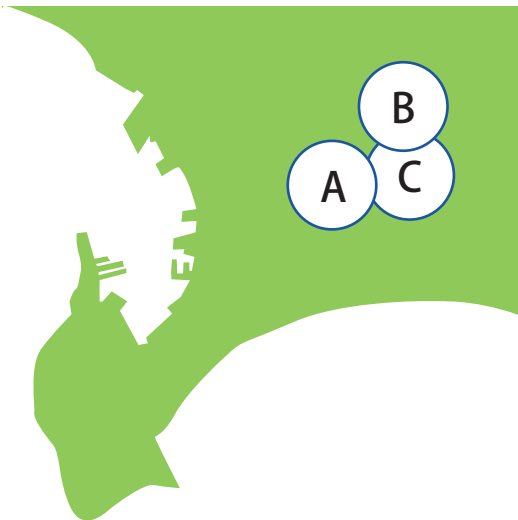
6 エリアイメージ



本町・五稜郭地区

クロスタウン～
人々の暮らしを
繋ぐ拠点

- ・ 楽しみながら歩くことのできる動線を設定
- ・ 通り一本入ると雰囲気が違うおもしろいまち
- ・ 電停から五稜郭公園方向へ誘導するための空間デザインの工夫



A 千代台公園

- ・ マラソンや野球大会等スポーツで訪れる人や市民が散策できる場の整備



B 本町交差点

- ・ 交通結節点としての整備(バス停の整備等)
- ・ 街路灯や花壇等の整備



C 五稜郭公園へのアクセス

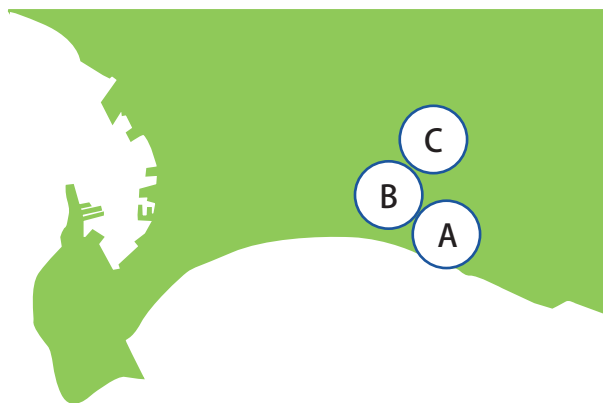
- ・ 車道, 歩道舗装の高質化
- ・ デザイン照明灯の設置

6 エリアイメージ



温泉街ルネサンス・ 温泉街をそぞろ歩けるような環境づくり(散策路・ 親水歩行コースなど)

- ・ 温泉街と商店街を繋ぐ動線の創造
- ・ 温泉街をひとつの公園として考える



A 熱帯植物園

- ・ 老朽化した熱帯植物園の改修
- ・ 外国人観光客の呼び込み強化



B 温泉街

- ・ 電停から温泉街まで緑や花を使った演出
- ・ 歩道(散策路), 川辺歩行コースの整備



C 函館アリーナ周辺

- ・ スポーツ大会やコンベンションなどで訪れる人が周辺を観光・散策しやすい動線の整備

7 「ガーデンシティ函館」の実現に向けた主な予定事業

○ 推進時期

-  前期 … H28～H32
-  中期 … H33～H37
-  後期 … H38～H42

ハード系事業

-  中臨港通(開港通り)整備(市道整備事業)
-  高田屋通・銀座通, 東雲広路, 公園通2号(高砂通り)などの整備
(市道整備事業)
-  十字街電線共同溝工事
-  函館山の遊歩道整備
-  熱帯植物園の整備
-  函館駅前通り整備(中心市街地活性化事業)
-  グリーンプラザ整備(中心市街地活性化事業)
-  ウォーターフロントの整備(末広地区緑地)
-  公園整備(千代台公園ほか)
-  公共施設における緑化事業(花壇整備等)
-  函館駅前花いっぱい事業
-  照明灯・街路灯の整備
-  街路灯の整備(町会への補助)
-  観光案内板の整備 など

ソフト系事業

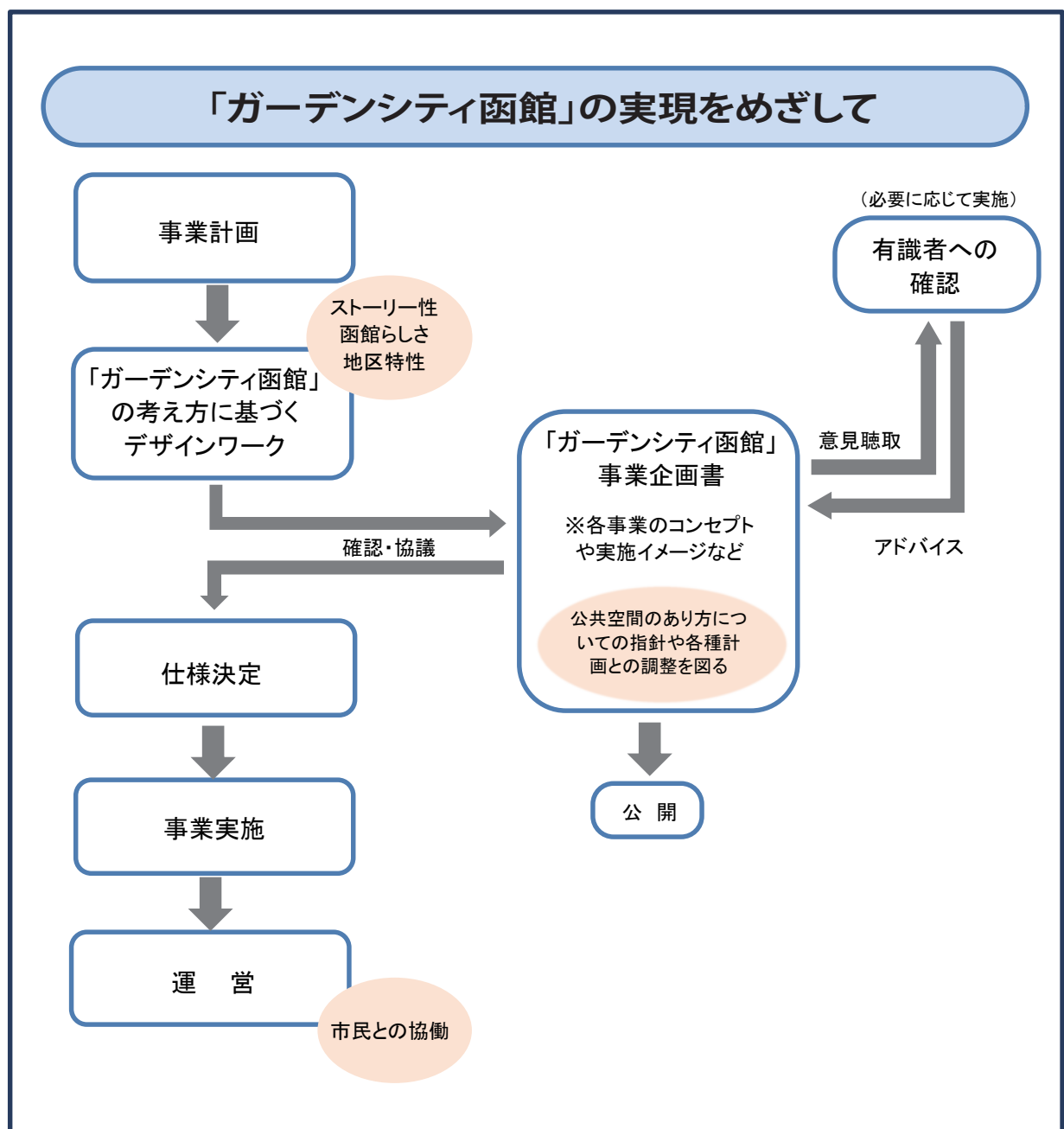
-  景観に配慮した建築物や屋外広告物等の誘導
-  総合的な空家空地対策の推進
-  市民協働による緑化推進事業
-  イルミネーション実施事業
-  整備街路を活用したイベントや誘客事業 など

8 事業展開にあたって

函館市が「ガーデンシティ函館」関連事業を展開する際には、ユニバーサルデザインに配慮しながら、以下により事業の計画・実施・運営を行います。

- 「ガーデンシティ函館」の実現をめざしてに記載される内容に沿った事業であること
- 事業実施地区における統一感や他の構築物等との調和などに配慮し、高いデザイン性を意識しながらストーリー性のあるデザインワークを行うこと
- 美しくうるおいのある町並み形成のための手引き「公共空間のあり方についての指針」を標準設計（デザインコード）とするほか、その他「ガーデンシティ函館」に関連する計画との調整を図りつつ事業を実施すること

事業推進方法



資 料

歴史と景観に配慮した、デザイン性の高い美しい町並みをつくる「ガーデンシティ函館」の実現について、質の高い都市空間を形成するための専門的な視点から検討するため、学識経験者や各種関係団体推薦者などからなる「ガーデンシティ函館」検討懇話会を設置し、「ガーデンシティ函館」の考え方や、今後整備が予定される市道中臨港通（開港通り）に関してなど、さまざまな観点から多くの貴重なご意見をいただきました。

1 検討懇話会開催実績

回数	会議開催日	会議内容
第1回	平成28年5月12日	座長選出 「ガーデンシティ函館」に関する意見交換
第2回	平成28年6月9日	「ガーデンシティ函館」に関する意見交換
第3回	平成28年7月27日	中臨港通（開港通り）整備に関する フィールドワーク・意見交換
第4回	平成28年8月19日	「ガーデンシティ函館」に関する意見交換 （まとめ）

2 委員名簿

	推薦団体等	職	氏名	区分
1	公立はこだて未来大学	教授	木村健一	学識経験者
2	北海道教育大学函館校	准教授	古地順一郎	学識経験者
3	函館工業高等専門学校	准教授	菊池幸恵	学識経験者
4	函館花いっぱい道づくりの会	代表	折谷久美子	各種団体
5	函館デザイン協議会	会長	岡田暁	各種団体
6	函館市商店街連盟	会長	渡辺良三	各種団体
7	函館市町会連合会	環境部長	松崎静江	各種団体
8	一般社団法人 函館国際観光コンベンション協会	ホスピタリティ 委員会委員長	齋藤利仁	各種団体
9	高田傑建築都市研究室	主宰	高田傑	事業経験
10	函館市公式観光情報はこぶら	編集長	安立真由美	事業経験

（座長）

3 懇話会での意見

(1) 基本的な考え方に対する意見

- すべて行政任せでは持続しない。アダプトプログラムの導入など官民連携の考え方が必要。
- 行政も様々な部局が同じ理念で取り組む意識が必要。
- 15年のスパンで整備の範囲を大きく広げたり、さらにグレードの高いまちづくりの方向性を考えられればよい。
- まちづくりは生活者のためにあるべき。生活のための整備が観光客のための整備よりも先ではないか。
- 条例や法規制ではなく、まちに良いデザインを置くことでコントロールができる。パターンランゲージで考えれば良い方向に向かう。
- 地区ごとに植栽を行う際に、どのように選定、提案、決定していくのか。全体的なプロデュースをどうしていくのか。将来を目指していくためにプロデューサーが必要。
- 都市デザインの骨格を皆で共有し、デザインコードをまとめていくこと。パターンランゲージに代表されるように、市民の共通認識を作り上げる取り組みが重要。
- 函館は、点という意味での観光資源や地域資源は豊富だが、パスが繋がっていないところが課題。
- 平成22年に公表された函館の歩行者用案内標識の整備計画では、地域ごとのコンセプトに従って、色や形、書体などについて、綿密な調査のうえ提言されている。道路整備はこうした標準設計に基づいて行うことが重要であり、高いデザイン性を確保するプロデュースの基本である。
- 過去の道道五稜郭公園線の整備に関し、当時の函館土木現業所では、整備内容のストーリーとコンセプトを明示している。こうした取り組みが市民理解を得るチャンスになる。
- デザインは、傑出した1人のデザイナーが独断で行うものから参加型に代わってきている。デザインを統括するマスターアーキテクトのような人材は必要と思うが、関わる人間が多いほどデザインの質が向上する。
- コンセプトが見えない。どの程度のことをやるのか、ただ道を綺麗にするのか。ガーデンシティをめざすためには、規制などもっと考えなければならないことがある。
- 函館らしさといっても一つのイメージには集約できない。各地区の特性をブレンドして西部地区を再生産するのではなく、その地区の特殊性が出せるとよい。
- 全体と個を繋げるためには、プロデューサーやマスターアーキテクトのような人材が必要になると思う。

(2) 目指すべき方向性に関する意見

- 車で移動する場合と歩いて見る場合では目線やスピードが違う。対象となる人が、どんな時間帯でどんな人たちと、どんな流れで見るのか、ということを絞り込むことが必要である。
- 若い世代がまちに留まれるような先進性やカッコよさ、若い世代が望む街の姿を、デザイン性が高いというキーワードの中に取り込んでいくことが大事。
- ガーデンシティ函館は、函館のまち全体がオープンガーデンのようにいろいろな方が訪れるというイメージではないか。
- 地元の人間に愛されるまち、地元の若者がデートしたくなるまちになることが必要である。
- 開港通りを整備することで、ウォーターフロント地区への雰囲気も出てくるし、商業者が出店するようになれば、日本を代表する観光ストリートに変わることができる。
- 函館の緑の中心地が函館山だとすれば、その緑を市街地に広げ、歩いて回れる緑の周遊、回遊を考えてはいかがか。
- それぞれの地区のキャラクターが際立っていても、なぜか不思議に調和する、ということをめざしていかなければならない。
- ガーデンシティが、人口減少を迎える中で市民協働の一つの事例になっていくことが函館の将来に必要である。
- 人の動きを想像しながら、イベントや観光客へのおもてなしなどの展開を考慮して、担当の垣根を越えて進めてほしい。
- 高いデザイン性にはお金がつきもの。資金調達の方法としては、クラウドファンディングのようなものも考えられる。
- その土地に脈々と続く土壌や注意深い文脈の理解と、ふさわしい文脈を探し当てて現在と結びつける作業こそがデザインであり、その過程がデザインのクオリティを決めていく。
- 歴史を辿る中にデザインのヒントがある。この街の歴史を地図の上から紐解いていく地道な下準備が必要である。
- 道路は、デザイン的には全く手付かずの分野で高い可能性がある。歴史や毎日のアクティビティを考え、道路空間が利用する人の活動をどうサポートできるのかを考えていくことが大事。
- それぞれの家の緑や庭を整備して、そこから外へ「溢れ出し」たものに対して補助金を出す都市があるが、函館にもこうした仕組みがほしい。
- 文化的景観を自分たちで作っていくという住民意識の向上が必要。ガーデンシティも住民に根付かなければ広い空間のハコモノ行政になってしまう。
- 常識に捉われず、目的にあったもの、皆が望むもの、人を動かしていく仕掛け作りというものを考えていく必要がある。
- 行政の縦割りに関わらず函館市の観光にどうプラスになるのか、全体的な観点で考えていただきたい。

(3) 事業展開に関する意見

- 函館らしさを打ち出すことが大切。花の種類などで函館らしさを表現できれば花壇もグレードアップしていく。
- 香りという要素も花の魅力の一つである。
- 函館は欧米のまち並みが似合うまちであり、具体的にめざす都市イメージがあればガーデンシティのめざす方向性を理解しやすい。
- 道路整備において、従来の車道を緑道開発する、または車の直進を制限して蛇行させるといったアーバンモジュールを取り入れることで、連続性がある美しい景観を楽しむことができる。
- 旧シーポートプラザは、函館らしい開けた海の景色や広場、ランドマークとなる摩周丸があり美しいポイントになるのもう少し活用してほしい。
- ストリートファニチャーは都市景観形成上で重要な役割がある。豊かなデザインのファニチャーを点在して連続させ、一定間隔で人が休める工夫が可能である。
- グリーンベルトをうまく活かさないか。回遊性、連続性のある気持ち良い緑地空間は重要。
- 東雲広路やグリーンプラザなどの広路は、自動車のために過剰な整備をして維持していくよりも、歩行者のための活用を考えていくべきである。
- 函館の両側の海を結ぶ1キロ通りなどは、観光客にアピールできる函館らしい通りとなる。
- 開港通りよりもう1本海側の整備をすべきではないか。
- 水に親しめる河川敷が函館にはないので、湯の川にある河川において水辺で散策できるような整備をしてはどうか。

- | | | | |
|----|-------------|-----|--|
| ※1 | アダプトプログラム | ・・・ | アダプトは養子の意味。行政から公共施設の整備や清掃を任された市民が自主的な判断で行う活動で、1980年代にアメリカで導入された。 |
| ※2 | パターンランゲージ | ・・・ | 建築や都市計画に関する理論で、言葉や表現の集合によって発見されたパターンが、まちづくりの普遍的なルールへのヒントとなる考え。 |
| ※3 | クラウドファンディング | ・・・ | 新規・成長企業と投資家をインターネットサイト上で結びつけ、多数の投資家から少額ずつ資金を集める仕組み |
| ※4 | ストリートファニチャー | ・・・ | 街路や広場などに置かれる、ベンチ・案内板・水飲み場などの屋外装置物の総称 |

函館市企画部計画推進室新規政策担当

〒040-8666 函館市東雲町4番13号

TEL 0138-21-3695 FAX 0138-23-7604